

2011年7月25日(月)

## 学力を高めるには、ことばの数(語彙数)を増やすことが大事

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：この夏休み中に、学力を飛躍的に高めるにはどうしたらよいか。

- (1)「開倫塾の夏期講習会で勉強したところまで、夏期講習会テキストを必ずやり直すこと」。
- (2)次に「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための三大練習」を、開倫塾の夏期講習会で勉強してよく「理解」したところまで、何回も、何十回も、科目によっては何百回も繰り返し行い、スミからスミまで覚え切ること。
- (3)この2つのことは、2011年夏塾長特別講義シリーズの第1回と2回のお話でよくわかりました。この他に、学力を高める方法がありますか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)授業でやったところまでテキストを全部やり直し、よく理解したところは「定着のための三大練習」をし、スミからスミまで覚え切る。自分で決めた「合格」という目的を達成するために、時間のかかるこのような作業をコツコツし続ける皆様は立派です。私の誇り、開倫塾の誇りでもあります。時間はかかるでしょうが、「合格」と「高い志」を持ち続けて、この夏休みは一日も休むことなく毎日の勉強を続けて下さいね。
- (2)「この2つの他に学力を上げる勉強の方法はあるか」という御質問ですね。この2つの他にも、塾生の皆様の学力を上げる勉強の仕方があります。実は、山ほどあります。この2011年夏塾長特別講義シリーズでこれからも少しずつお伝えしますので、少しずつでよいですから自分でやってみて、確実に身につけ、開倫塾の塾生である間に自分のものにして下さいね。

(3)少しだけ考えて頂きたいこと

その前に、少しだけ考えてもらいたいことがあります。私が開倫塾を32年前に創業したのはなぜかといえば、実は塾生の皆さんの「自己学習能力の育成」のためです。つまり、開倫塾の塾生である間に、今通っている学校だけでなく、進学を希望する学校や、社会に出てからも一生涯役に立つ、自分に合った勉強方法を少しずつ身につけてもらいたい。自分に合った勉強の仕方を身につけて学力を向上させ、人生の選択肢を少しずつ増やしてもらいたい。そう考えたからです。

人生の大切な岐路、つまり分かれ道を迎えたときに、選択肢は少ないよりは、少しだけでも多いほうがよいのではないかと。結局は一つしか選べないけれども、「人生の成功」とは選択肢が1つだけではなくいくつもある人生なのではないかと私は考えます。

はっきり言ってしまえば、高校や大学に進学する場合に、偏差値があまり高くないと合格できる学校は限られます。偏差値が少しでも上がれば、合格できる学校は多くなります。偏差値があまり高くないと、1～2つの学校にしか進学できません。けれども、自分の力で学力を身につけ、偏差値を少しずつでも上げればどうなるか。いくつかの学校の中から、自分の将来にとって最もふさわしい学校を選択し、進学を果たすことができる。そこで、

自由自在に上級学校での生活をする事ができる。私は、このような人生、多様な選択肢のある人生も素晴らしいのではないかと考えます。

何のための学力か、何のために、今、勉強しているのかも、ぜひ、この夏真剣に考えて下さいね。

(4)この夏、学力を向上させるよい方法はもう2つあります。

Q：何ですか、あと2つとは。早く教えてください。

A：あせらないで、私の話をゆっくり聞いて下さいね。

(1)その1つは、よくわからない「ことば」や「語句」が出てきたら、すべて「辞書」を引いて調べることです。できるだけ、その場でことばの意味を覚えることです。

(2)「辞書」を引いて調べたことは、すべてノートや教科書などにメモをして、メモした「ことば」の意味はその場で何回も読み直して覚えてしまうことです。

(3)一番よいのは、辞書を引いて調べた「ことば」の意味を科目別のノートにすべて書き写し、まずは、どんなことが考えて、うんなるほど、こういうことかと十分に「理解」することです。辞書に書いてある「ことば」の意味の中にわからない「ことば」があったら、また辞書で調べ、ノートに書き写しておくことは当然です。(これは多くの人がやっていますよ)

(4)十分に「ことば」の意味がわかったら、つまり「理解」できたら、その場でその「ことば」とその「意味」を覚えてしまうこと。

「」の意味は「だ」とスラスラ言えるまでにすることが大事です。これには、正確にスラスラ言えるようになるまで大きな声で何回も読む「音読練習」が役に立ちます。

次に、スラスラ正確に言えるようになった「ことば」とその「意味」を、「楷書」つまり学校の教科書の書体で正確に書けるようになることが大事です。これには、楷書で正確に書けるようになるまで何回も「書き取り練習」をすることが役に立ちます。

「定着のための三大練習」の中の2つの練習、つまり、「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返し、自分の力で辞書を引いて調べた「ことば」と「ことばの意味」を正確に身につけましょう。

(5)科目別のノートに書き写した「ことば」とその「意味」は、毎日、繰り返してノートの初めのページから読み直し、一度辞書を引いて調べ、その場で覚えた「ことば」とその「意味」は絶対に忘れないように心がけましょう。(これも多くの人がやっていますよ)

(6)学校の教科書や開倫塾のテキスト、いろいろな本や新聞を読んでいて、そこに書いてあることがよくわからないのはなぜか。学校や開倫塾の先生はじめいろいろな人のお話を聞いても、言っている意味がよくわからない理由は何か。その理由をよく考えてみましょう。頭がよい、あまりよくないということは全く関係がありません。その理由は、意味をよく理解している「ことばの数」があまり多くないからではないかと私は考えます。

(7)自分でよく理解している「ことばの数」が多い人は、教科書や参考書、資料集、問題集を読んでも、そこに何が書いてあるかがよくわかることが多い。初めて出会う「ことばの数」が少ない、つまり、わからない「ことばの数」が少ないから、何が書いてあるかが大体わかるのだ

と思います。

- (8)ところが、自分でよく理解している「ことばの数」があまり多くない人は、教科書などを読んでも、そこに何が書いてあるかがあまりよくわからないことが多い。初めて出会う「ことばの数」が多いため、何が書いてあるのかよくわからないのだと思います。
- (9)意味のよくわからない「ことば」に出会ったら、辞書を引いたほうがよいと、小学生、中学生、高校生も、最近では大学生も、更には社会人までもが言われるのはなぜか。意味のよくわかっていない「ことばの数」が多ければ多いほど、教科書はじめいろいろなものを読んだり、人の話を聞いたりするときにその意味がよくわかる、「理解」できるからだと私は考えます。自分が誰かにことばで伝えたいことがあった場合に、自分に身につけている「ことばの数」が多ければ多いほど、いろいろな表し方で言ったり、書いたりすることができます。「ことばの数」の多さは、「読む」「聞く」「話す」「書く」能力を強めます。
- (10)自分でよくわかっている、つまり「理解」し、身につけていることばの総体をちょっと難しい表現かもしれませんが「語彙(ごい)」と言います。英語では vocabulary(ボキャブラリー)と言います。自分に身につけている「ことばの数」、「語彙(ごい)」、「ボキャブラリー」が多ければ多いほど、書いてあること、話されていることがよく「理解」でき、また、自分が伝えたいことを「話すこと」「書くこと」ができると私は考えます。
- (11)また、「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数を増やすことは、学力向上、成績向上、偏差値向上に直結します。入学試験だけでなく、採用試験、検定試験、国家試験などありとあらゆる試験に合格するときには、専門の先生方からの授業を受けたり、その試験に合格するための「教科書」や「参考書」、「用語集」、「問題集」などで勉強したりしますが、そこに書かれていることをよく「理解」するためには、自分がよく「理解」し、身につけている「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数が多ければ多いほど助かります。勉強がどんどんはかどります。
- (12)このように、自分がよく「理解」し、身につけている「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数が多ければ多いほど、学校での成績も上がり、偏差値も上がり、入学試験や就職試験はじめ世の中のありとあらゆる試験にも合格しやすくなると、私は「断言」できます。
- (13)そこで、教科書などを読んでいて、少しでもよくわからない「ことば」に出会ったら、おっくうがらないで必ず辞書を引き、その意味をその場で覚え、また、ノートにもきちんとメモをしておくこと。各科目のノートはいつも初めの1ページから勉強し直して、一度辞書で調べた「ことば」と「ことばの意味」は絶対に忘れないようにすることです。
- (14)よくわからない「ことば」が出てきたら「気持ちが悪い」と思い、どんどん辞書で意味を調べること、調べた意味もその場で必ず覚えることを習慣とすることが、学力向上のコツ、秘訣と言えます。

Q：教科書を勉強していて、辞書で調べてもよくわからないことはどうしたらよいですか。

A：(1)とてもよい質問ですね。(It is a very good question.)

そのときには、各科目の学年別の参考書を辞書代わりに用いることをお勧めします。中学

生なら、学年別の「ハイトップ」か「チャート式」の参考書を辞書代わりに用いること。

(2)また、各科目の分野別の「用語集」という参考書と資料集を合わせた本も非常に有用です。書店や図書館で探してどんどん活用して下さい。(用語集を活用している人もたくさんいますよ)

(3)小学生は中学生の、中学生は高校生の、高校生は大学生の教科書や参考書、用語集を用いると、より詳しく、わかりやすい、丁寧な説明や解説が書いてあります。勉強に遠慮は要りません。誰に遠慮することなく、上級学校の本もどんどん活用すべきです。

Q：辞書も少し難しめのものを使ってよいのですか。

A：(1)言い忘れて申し訳ありませんでしたが、私の答えは「もちろん」です。小学生でも岩波書店の「広辞苑」を毎日のように用いる人は山ほどいます。

(2)私は、高校生のときに研究社の「英和大辞典」という大型の辞書を買ってもらい、1つ1つの英語の単語にこんなにも多くの、また、深い意味が含まれているのかを知り、本当に驚いたことがあります。普段は三省堂の「クラウン英和辞典」と研究社の「英和中辞典」をボロボロになるまで使っていたのですが、研究社の「英和大辞典」のお陰で英語が大好きになりました。

(3)古文は小西甚一先生の「基本古語辞典」(大修館)を、これもボロボロになって壊れてしまうくらいまで使っていました。古文が好きになったのは、小西先生のこの辞典のお陰です。最近、小西先生の「古文の読解」と同じように、この辞書も復刊されましたので、ぜひ活用して下さいね。

Q：エッ、中学生や高校生になっても辞書は引いたほうがよいのですか。

A：(1)なぜそのような質問をするのか、私にはよく理解できません。

(2)皆さんの中には、辞書の用い方の勉強は小学生で行うので、辞書は小学生が引くもので、中学生や高校生になったら辞書を引いてことばの意味を調べることはしなくてよいと、勘違かんちがいをなさっている方もいるかもしれませんね。

(3)なぜ小学校では辞書の用い方を学ぶのか。それは、小学生のうちに国語辞典と漢和辞典の用い方を身につけ、中学校以降の勉強に役立てるためだと私は考えます。

小学校よりは中学校、中学校よりは高校、高校よりは大学、大学よりは実社会のほうがはるかに難しいことばが用いられることが多い。これはまぎれもない事実です。

(4)小学生時代よりは中学生時代、中学生時代よりは高校生時代、高校生時代よりは大学生時代のほうが、また、学生時代よりは社会に出てからのほうが勉強内容や活動の内容がどんどん難しくなってきますので、小学校で身につけた辞書の用い方を最大活用して、上の学校で学ぶ人ほど辞書を用いてことばの意味を調べる回数が増えるものと私は考えます。

(5)それなのに、辞書を用いるのは小学生だけで、中学生、高校生、大学生になったらわからない「ことば」に出会っても辞書を引いてその意味を調べようとしないのでは、全く勉強にならないと私は考えます。中学生、高校生、大学生がわからない「ことば」を目にしてもそのまま放っておいては、勉強が進まない。成績や偏差値が上がることもないと私は考えます。

(6)ことばの意味をよく「理解」しないまま、つまり、「理解」が不十分なままテスト対策をしても、よい点数は取れないと私は考えます。

(7)中学生は小学生以上に、高校生は小学生・中学生以上に、大学生は小学生・中学生・高校生以上に、もっと言えば、社会に出たら学校で勉強したとき以上に、わからない「ことば」に出会ったら熱心に辞書を引き、そのことばの意味をコツコツと身につけ、「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数を毎日少しずつでも増やし、自分の力で豊かな人生を手に入れて下さいね。

(8)私は学校を出てかなりたちましたが、勉強が不足していますので、毎日辞書のお世話になっています。毎日、何回も何十回もいろいろな辞書を引いて調べています。

辞書のお陰で、日本語で書いてあるものはかなり自由に読めるようになりました。英語も、簡単なものは読めたり聞けたりできるようになりました。(英語を話したり、書いたりすることは、本格的に訓練をしていないのでまだまだ不十分です。これから少しずつ勉強しようと思います。)

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)この夏、学力を一気に上げるのは、あまり難しいことではありません。次のことを徹底的に実行に移しましょう。

開倫塾の夏期講習会、お盆特訓、8月分授業、模試直前授業、補習授業などで勉強したところは必ずもう一度やり直すこと。

やり直して、そうか、これはこのようなことなのかと「うなるほど」とよくわかった、「理解」したところは、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」をして、スミからスミまで一語残らず、また、計算や問題は一問残らず覚え切ること。

学校の教科書や開倫塾のテキスト、さまざまな参考書、教材、問題集などを読んでいて、よくわからない「ことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考えて、辞書を引いてその意味を調べ、調べたことはその場で覚える。調べた「ことば」はその意味をノートに書き写し、その意味を覚える。そのノートを何回も何回も読み返し、一度覚えた「ことば」とその「ことばの意味」を忘れないようにする。「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数を少しでも多くする努力をすること。

(2)学校の教科書以外の本や新聞を、この夏できるだけたくさん読むことの大事さは、明日お話しします。ただ、今日のうちに塾生の皆様にお伝えしておきたいことが、最後に一つあります。それは、「本」や「新聞」を読むときも、意味のよくわからない「ことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考えて、辞書で必ずその「ことば」の意味を確かめることです。確かめたら、その場でその意味を覚えてしまうこと。そして、もしできれば、調べた「ことば」とその「意味」を「ノート」や「カード」に書き写しておくこと。書き写した「ノート」や「カード」を繰り返し読み返し、「ことば」とその「意味」を忘れないようにすることです。

(3)今日は、学力向上の前提となる「ことばの数」を増やすことと、そのために辞書を引き、その意味を覚えることの大切さをお話いたしました。

今日からでも、やってみて下さいね。必ず成績がぐんぐん上がりますよ。

以上